

海外研修報告書

村上 茉奈美

3 年 14A142

☆大まかな流れ

平成28年度8月17日から20日の4日間、海外研修で韓国に訪れました。

東国大学の本学と薬学部、大学病院、薬局、韓方市場、韓方博物館を見学しました。

1 東国大学について

東国大学はソウルキャンパス(本学)、イルサンキャンパス(薬学部)、バイオメディカルキャンパスがあります。東国大学は仏教大学で白い象や蓮の花がシンボルです。本学にはお寺がありました。



東国大学の本学はソウルの中心部にあり、今年開校110周年を迎えました。教育学部、文学部、社会学部、演劇学科、警察行政学科などの学部があります。

東国大学の薬学部は2011年に新しく開設されたばかりです。韓国の薬学部は6年間の教育制度があります。最初の2年間、他大学で一般教養課程 (pre-pharmacy course) を受け、薬学入学試験 (P.E.E.T) を受けます。次の4年間、薬学部の大学に行きます。薬剤師資格試験 (pharmacist board exam) を受け、薬剤師の免許をもちます。日本の薬学部と比較すると、6年制という点は共通ですが、教育制度が違います。日本では最初の1年は一般的な教育を受けます。2年目から4年目で基礎の必須科目、臨床の必須科目を取り、入門的な練習をします。4年目から6年目で薬局実習をし、卒業研究を行います。CBTやOSCEという試験を受けます。

東国大学の薬学部では製剤の部屋、薬局のモデルルーム、生薬や微生物の研究室などを見学させていただきました。

2 東国大学病院について

韓方と西洋医学が一緒になっているのが特徴です。外来も受け付けますが入院患者の調剤が主です。調剤システムは自動化されていますが、注射剤や飲み薬は人が確



※半夏は毒性が強いので棚に赤いシールがついています。半夏は解毒する薬も入れなければなりません。

認して調剤が上手くいくようにしています。外来の方が診療されると処方箋がプリンターで印刷され、処方情報が分かります。日本と同様に、監査する人がおりパソコンで確認します。院内製剤室では化学物質が厳重に管理されています。抗癌剤室には抗癌剤に必要な注射があります。患者からの質問を受けるDI室もあります。

韓方の診療室では、診療を受け検査し治療します。見学をした際に顔面麻痺の患者の治療を行っていました。針と光線で治療を行ってから、韓方薬で治療をするそうです。外来用や入院患者の韓方薬は韓薬学科の薬剤師が作ります。

3 薬局

処方がメインで一般の薬の調剤を行います。OTCもあります。日本ではチェーン店が多いですが、韓国では個人的に経営する店が多いです。今回訪れた薬局は総合病院の門前にあるため薬の種類も多いそうです。ルーティンの薬は500～600種類、全体では800種類あるそうです。市立病院ではジェネリックを使いますが、大学病院ではジェネリックを使わないそうです。日本では薬剤師は1人1日当たり80件まで処方箋を扱えますが、韓国では1人1日当たり75件までしか扱えません。処方に問題がある場合は科に直接聞き、医者の意見を聞きます。パソコン上でミスが見つかることもあるそうです。韓国にはお薬手帳がありませんが、薬の処方に関しては審査評価委員会に薬の情報がいきます。処方を受けた病院と他の病院で薬が重複する場合など知らせてくれます。その場合、薬剤師が判断して薬を出します。廃棄することもある、続けて飲む場合もあります。これは日本にはないシステムです。



4 韓方市場、韓方博物館

韓方市場は韓方薬類を扱う商店街です。韓方薬の元となる生薬を売るお店や、韓方薬を作るお店があります。韓方博物館には様々な種類の生薬や、韓方に関する書物や道具など韓方の歴史が分かる展示がなされていました。

☆感想

東国大学のソウルキャンパスとイルサンキャンパスが印象に残っています。どちらのキャンパスも広くて綺麗でした。ソウルキャンパスには芸術シアターや庭園があり豪華なキャンパスでしたが、自主学習のスペースが充実していることが一番羨しかったです。イルサンキャンパスには薬学部があります。韓国の薬学部も6年制ですが、教養課程に違いがあり、興味深いと思いました。今回の研修を経て、韓国の医療や薬学に関して知ることができました。有意義な研修でした。ありがとうございました。

